特集・旅行台湾年

Tour Taiwan 2008-2009 旅行台灣年

台湾 鉄道の旅

蒸気機関車、ローカル線、新たな魅力満載

台湾の交通部観光局は、今年から2カ年を「旅行台湾年」に定め、外国人観光客の誘致を強化している。日本を最重点市場として、観光素材の提案に注力。その1つが鉄道の旅だ。台湾の鉄道は、多彩な路線や車両、車窓からの美しい景観、日本統治時代のエピソードなど、多様な旅のテーマを秘めている。鉄道の旅に、新たな旅行者層の開拓、リピーターの獲得を期待する。

ＣＫ124 交通部台湾鉄路管理局に現存する稼働可能な蒸気機関車。日本統治時代に日本で台湾向けに製造したＣ12形の７両のうちの１つ。１～５号機は1936年製、６～７号機は1942年製。小回りが利き、逆行運転の多い支線区間などで客車または貨物列車として活躍した。戦後は、台湾鉄路管理局に引き継がれ、型式もＣＫ120型（ＣＫ121～ＣＫ127）に改められた。主に集集線を走っていたが、鉄道の電化に伴って1979年に現役を退き、４号機（ＣＫ124）を除き解体された。４号機は施設に展示されていたが、大がかりな復元整備の末に2001年、約22年ぶりに復活を遂げた。現在は観光イベントなどで運行。ＣＫ124はデフレクター（除煙板）が装備され、日本のＣ12形とは印象が異なる。

旅行台湾年で提案強化

旅行台湾年の象徴的な鉄道イベントが、蒸気機関車「ＣＫ１２４」の運行だ。ＣＫ１２４は、日本統治時代に導入された機関車で、一度は引退したが、復元整備され、観光イベントなどに活用されている。

ＣＫ１２４の運行は、４～６月の毎週第3金曜日（４月18日、５月16日、６月20日）。「台湾鉄道懐古の旅」として、台北県東部を走るローカル線・平渓線で運行される。１日２便の運行で最大乗車人数は１便１５９人の予定。特製チケットやバッジ、記念スタンプも準備している。

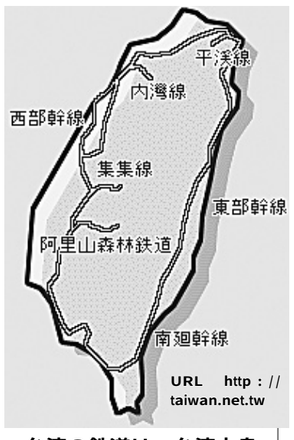
運行イベントの舞台となる平渓線は、日本人客の誘致に活用が期待される観光資源の１つだ。台北から数十キロの位置にありながら、亜熱帯の豊かな自然と、かつて炭鉱で栄えたレトロな雰囲気の漂う町並みが旅行者を魅了する。

台湾の鉄道旅行は、主要幹線の車窓から広がる景観も風光明媚だが、平渓線をはじめとするローカルな支線にも魅力が多い。登山鉄道として世界に知られる阿里山森林鉄道は、嘉義北門駅から、47のトンネル、72の橋を越え、海抜２２１６メートルにある終着駅に至る。阿里山からのご来光を仰ぐための祝山線には、観光列車が走る。また、西部幹線の二水駅から伸びる集集線も旅行者に人気の路線で、のどかな田園風景を楽しめる。

台湾高速鉄道（台湾新幹線）の開通も、鉄道の旅行環境を一変させた。新幹線に乗車する楽しみはもとより、移動時間の短縮で各地の路線を巡る日程が格段に組みやすくなった。

台湾の観光局は、日本人客の今年の誘致目標を前年比５％増の１２４万人に設定。旅行台湾年の一環として、鉄道旅行の宣伝を強化、旅行会社には商品造成を期待している。

街の中を走り抜ける平渓線



台湾の鉄道は、台湾本島を一周できるようにつながっており、西側を南北に貫く西部幹線、東側の海岸線をふちどるように縦断する東部幹線などのほか、主要駅から延びる支線がある。2007年１月には、台北－高雄間を結ぶ台湾高速鉄道（台湾新幹線）が開業している。

西部幹線は、基隆から、台北、新竹、台南を経て、高雄間をつなぐ縦貫線のほか、竹南－彰化間の台中線、高雄－枋寮間の屏東線。南廻り線は、枋寮－新台東の間を結んでいる。

東部幹線には、八堵－蘇澳間を走る宜蘭線、蘇澳－花蓮間の北廻り線、花蓮－台東間の花東線がある。

支線の平渓線は、台北県平渓郷を走り、北廻り線の瑞芳駅または侯硐駅から乗り換える。内湾線は、新竹県横山郷の最東端の集落内を走る路線で、新竹駅で乗り換える。集集線は彰化、南投にまたがる在来線。阿里山線（阿里山森林鉄道）は、阿里山国家風景区を走る世界的にも有名な登山鉄道だ。

台湾高速鉄道は、日本の新幹線技術を導入。これまで特急列車で５時間以上かかっていた台北～高雄間を最短90分で結んでいる。

登山鉄道として世界的に有名な阿里山森林鉄道

田園地帯を走る集集線

台湾観光局発行の鉄道ガイド

魅惑の平渓の線

侯硐－菁桐 15.4キロの旅

平渓線は、台北県東部の平渓郷を走るローカル線で、侯硐駅－菁桐駅間の15・4キロを結んでいる。ほぼ全線にわたって基隆河に沿っており、車窓からは美しい渓谷や亜熱帯の植物が臨める。かつて炭鉱の街として栄えた沿線には、どこか懐かしいノスタルジックな雰囲気が漂い、訪れる旅行者を魅了する。

全線開通は１９２１年７月。石炭の運搬のため、台陽礦業株式会社の専用線として敷設された。１９２９年に台湾総督府鉄道部の管轄下に入り、同年10月から旅客営業もスタートした。

１９８０年代に炭鉱の閉山が相次ぎ、一時は廃線も検討されたが、現在は観光路線として人気だ。運行は１時間に１本程度、毎日16往復で、週末には２往復が増発される。全列車が日本製の気道車ＤＲ１０００型で運行されている。

沿線には、途中下車したくなる観光スポットが点在している。

台湾煤礦博物館は、１９７７年に閉山した新平渓炭坑をそのままテーマパークにした博物館。蓄電池を装備した小さな機関車がけん引する、石炭運搬用だったトロッコに乗車できる。十分の駅から徒歩15分。

十分老街は、素朴な情緒が残る古い町並みが魅力。線路に沿って雑貨屋や食堂が並び、その間を列車がすり抜けるように走る。

終着駅の菁桐駅は古い木造駅舎が健在だ。駅長室内には、日本統治時代の鉄道電話や金庫なども残されている。

平渓線の旅には、１日周遊券（54元）が便利だ。

台湾煤礦博物館を走るトロッコ

菁桐駅は古い木造駅舎が健在

台湾観光局は、平渓線を紹介するパンフレットを作成

旅行会社も鉄道に注目

中高年や鉄道ファン狙う

日本の旅行会社もすでに鉄道の旅に注目している。蒸気機関車ＣＫ１２４の運行イベントに合わせたツアーや、ローカル鉄道で台湾を１周するツアーなどが商品化されている。鉄道ファン、中高年層、それぞれのターゲットに向けて新たな台湾の魅力を提案。今回は２社の旅行商品を紹介する。

鉄道ファンにこだわりの旅

名鉄観光サービス

ＣＫ１２４の運行イベントに合わせてツアーを企画したのが名鉄観光サービス水戸支店だ。商品名は「台湾ＳＬと森林鉄道の旅」。６月19日から５日間の日程で催行する。鉄道趣味誌「鉄道ジャーナル」の協賛を受けるなど、鉄道ファンにターゲットを絞り込んだ。

販売担当者で添乗も務める水戸支店の西岡広行さんは、鉄道ファンに向けた海外の鉄道旅行を数々企画、昨年10月には台湾高速鉄道の開業記念ツアーも手がけた。自らも鉄道ファンで、マニアを満足させるプランづくりにこだわる。

６月のツアーでは、平渓線、阿里山森林鉄道などの支線を巡るほか、台南県の烏樹林にある元製糖工場の専用線だったナロー鉄道（狭軌鉄道）に乗車するほか、専用バスで観光地を押さえながら、台湾をほぼ１周する。阿里山森林鉄道などに乗車するほか、花東線にある山間の小さな駅で弁当を楽しんだり、集集線の鉄道ファンに向けた趣向も盛り込んでいる。

台湾の鉄道の旅について、西岡さんは「バラエティに富んだ路線や車両を短期間で楽しめるのが魅力。車窓からの眺めも、台湾独特の景色、どこか日本と似た懐かしい景色、さまざまな景観があり、鉄道ファンを魅了してくれる」と話している。

「台湾ＳＬと森林鉄道の旅」の主な行程　▽１日目＝台北観光（台北泊）▽２日目＝ＣＫ１２４に乗車して十分へ、到着後にＳＬとローカル列車の撮影、平渓線ローカル列車で青桐、折り返して瑞芳へ（台北泊）▽３日目＝特急・自強号で嘉義へ、阿里山森林鉄道で阿里山へ（阿里山泊）▽４日目＝祝山線でご来光鑑賞、烏樹林のナロー鉄道に乗車、台湾高速鉄道で嘉義から台北へ（台北泊）▽５日目＝帰国

問い合わせは、同社水戸支店（☎０２９・２２１・４５２８）まで。

ローカル線で新たな発見を

ワールド航空サービス

ワールド航空サービスは４～５月、「ローカル鉄道で巡る台湾周遊の旅」（７日間）を発売している。成田空港発４回、関西国際空港発１回を催行する。昨年秋に続く企画で、主に中高年層の人気を集めている。

ローカル鉄道をメインに、専用バスで観光地を押さえながら、台湾をほぼ１周する。阿里山森林鉄道などに乗車するほか、花東線にある山間の小さな駅で弁当を楽しんだり、集集線の歴史ある木造駅舎を訪ねたりする内容だ。

参加者は、鉄道ファンというわけではなく、ミドル～シニア層の夫婦や小グループが中心。昨年秋の商品化に対する反響は大きく、今春も申し込みは順調だという。

同社東京支店の春名釈営業部長は「特別な観光列車ではなく、在来のローカル線に乗ることで、『地元の暮らしに触れたい、田舎の風情を体感したい』――そうした希望を持つ旅行者に人気だ。台北を中心に台湾旅行の経験はあるが、今度はじっくり地方を巡りたいという参加者も多い」と話す。

「ローカル鉄道で巡る台湾周遊の旅」の主な日程　▽１日目＝特急・自強号で花蓮へ（花蓮泊）▽２日目＝バスでタロコ渓谷、花東海岸（知本泊）▽３日目＝花東線池上駅から台東駅へ、ブヌン族の集落訪問（知本泊）▽４日目＝南廻線で坊寮へ、バスで墾丁などを経て台南へ（台南泊）▽５日目＝阿里山森林鉄道に乗車（阿里山泊）▽６日目＝希望者は早朝に祝山線、バスで日月潭へ、集集線に乗車、バスで台中へ（台中泊）▽７日目＝台湾高速鉄道で台北へ、故宮博物院、帰国

問い合わせは、同社東京支店（☎03・３５０１・４１１１）。

台湾旅行情報

ラッピングバス　都内で運行開始

台湾観光協会は今月から、東京都内を走る都営バス３路線で、台湾観光をＰＲするラッピングバス（２台）の運行を開始した。台湾観光のイメージキャラクターを務めるアイドルグループ「Ｆ４」、旅行台湾年のロゴなどを車体にあしらった。丸の内や銀座などを走る。協賛はチャイナエアライン、エバー航空。期間は９月末まで。

銀座、丸の内などを走るラッピングバス

台湾観光協会　ガイドブック一新

台湾観光協会は、日本人旅行者向けの基本ガイドマップをリニューアルする。「台湾を遊ぼう台湾トラベルマップガイド」のタイトルで発行、無料配布を始める。旅行台湾年のキャンペーンを紹介したほか、鉄道の旅や夜市巡りの魅力に触れ、先月開業した高雄のＫＭＲＴ（地下鉄）の路線図も掲載している。

故宮博物院　高級レストラン開業

故宮博物院に食の楽しみが増える。台湾を代表する高級ホテルチェーン、晶華国際酒店（リージェント）のレストランが５月初旬にオープンする。このほか故宮博物院には、本館４階の三希堂茶室をはじめ、１階と２階のカフェテリア、敷地内には別のレストランもある。本館は受付窓口にことわれば、出入りが可能で、１日がかりの鑑賞も楽しめる。

国内ＰＲイベント

４月25～27日	埼玉西武ライオンズホームゲーム〈対オリックス戦〉「台湾応援デー」イベント　（埼玉県所沢市／西武ドーム）
４～６月	日台合作映画「鬪茶～tea fight」完成披露試写会（東京都内）
４～９月	「旅行台湾年」ラッピングバス運行（都バス03、04、05系統）
５月３～５日	ツアーエキスポ2008（大阪市南港／インテックス大阪）
５月31日・６月１日	長野・信州夢街道フェスタ2008（長野県松本市）
６月４～８日	YOSAKOI ソーラン祭り（北海道札幌市）
６月19～22日	旅フェア2008（神奈川県横浜市／パシフィコ横浜）

台湾イベント（４～６月）

４～７月	黒マグロ文化観光祭（屏東県　東港）
４～５月	客家桐花文化美食観光祭　５月の雪　アブラキリの花祭りイベント（台北、桃園、新竹、苗栗、台中、彰化、南投の７県）
５～６月	日月潭ホタル祭り（南投県日月潭）
４月18日・５月16日・６月20日	ＣＫ124蒸気機関車　平渓線運行イベント（台北県平渓郷）
６月８日	台湾端午節　シーズン祭り　ドラゴンボートレース、花火大会（台北、鹿港、基隆、桃園ほか　台湾各地）
６月	秀姑巒渓観光ラフトレース（花蓮県）
７月１日	1000人合同足裏マッサージイベント（台北市内）

観光イメージキャラクター F4

台湾観光局プロジェクトドラマ
「君につづく道 ~Wish to see you again~」
BS日テレ 毎週水曜日 午後7時～ 放送中!
地上波でも続々と放映開始。朝日放送、名古屋テレビ、広島ホームテレビほか、テレビ神奈川、テレビ新潟でも放映準備中。
台湾各地の景勝地がストーリーに織り込まれ、観光の魅力と人々のふれあいを描き出すドラマ。F4が出演している。

台湾観光局 http://taiwan.net.tw

台湾観光協会東京事務所
電話 03-3501-3591　FAX 03-3501-3586
〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目5-8　川手ビル３階

大阪事務所
電話 06-6316-7491　FAX 06-6316-7398
〒530-0047　大阪市北区西天満 4-14-3-6F

Tour Taiwan 2008-2009 旅行台灣年
一起去台湾玩
～台湾を遊ぼう～
美味しくて、楽しくて、美しい!
台湾は、いつも新鮮で、いつも感動にあふれています。
五感で楽しめるイベントがいっぱい。
いっしょに台湾を遊びませんか。

「旅行台湾年」ビッグプレゼントキャンペーン
海外からお越しの観光客の皆さまに、MRTや観光テーマパークのチケット、特産品、温泉クーポンをプレゼント!（先着順。受付は台湾観光協会まで）
3月まで　台北MRT1 日乗車券、または高雄国際空港到着の入国者には高雄観光船券の提供（台北MRT1 日乗車券との重複入手はできません）
4月~6月　観光テーマパークの入場券
7月~9月　台湾農産品、特産品の引換券
10月~12月　温泉クーポン
対象　①個人旅行客（航空券+ホテル）②パッケージツアー客（団体ツアー客を除く）

GET CHANCE! 入国100万人目ごとの 賞金プレゼントイベント
100万人目ごとの幸運な台湾入国者に、ショッピングクレジットカード（台湾内のみで使用可）をプレゼント致します。
●100万人目…10万NT$
●200万人目…20万NT$
●300万人目…30万NT$
●400万人目…40万NT$
対象　外国籍旅券所持者（クルーズ船などの利用者は対象外）

詳細情報　http://www.go-taiwan.net/tourtaiwan.html